

## Comments and Discussions

Hitoshi HIRAKAWA (平川 均)\*

本論文は、今世紀に入って著しい成長をみせている中国自動車産業の発展と、今後のさらなる発展に関わって日中が協力する必要性及び重要性を論じたものである。日本の中国自動車産業との交流は 1970 年代から始まり、交流の歴史は古いが、実質的な提携は他の先進工業国と比べて後れをとった。だが、中国の自動車産業は日本が後れをとった、まさにその時期に急速な発展を果たし、中国市場は大きく変化した。しかも急速に拡大する中国自動車市場は、その発展の展望と人口規模の大きさからして、無限の市場的な価値を生み出している。

だが、石油を燃料とする中国の自動車産業の発展と自動車社会への突入はエネルギー需要を爆発的に拡大させ、エネルギーや環境問題をおこすことは間違いない。ここに環境技術において蓄積を持つ日本と中国との協力の重要性が存在する。日本の企業にとって自動車の最先端技術を移転に慎重であり過ぎると、再び中国市場において後れを取る可能性がある。しかし、日中の国際協力は相互利益を生むに違いない。

実際、アメリカにおける自動車企業の苦境に象徴される先進国市場における自動車産業の意義は大きな変化の過程にある。今日、地球環境の重要性が認識されるようになり、自動車産業のあり方が問われるようになった。こうした状況にあって、日中の自動車産業における国際協力は同産業の発展のあり方に関わっても重要な課題である。大局に立った判断が求められていると言えるであろう。本論文の提言はそうした意味において意義がある。

\* Professor, Graduate school of Economics, Nagoya University.  
名古屋大学大学院経済学研究科教授